登録ストックヤード利用の流れ

1 ストックヤード利用前に建設発生土の土質区分について調査試験で確認してください。

表-1　土質区分判定のための調査試験方法

判定指標※1)	試験方法	規格番号・基準番号
コーン指数※2)	締め固めた土のコーン指数試験方法	JIS A 1228
土質材料の工学的分類	地盤材料の工学的分類方法	JGS 0051
自然含水比	土の含水比試験方法	JIS A 1203
土の粒度	土の粒度試験方法	JIS A 1204
液性限界・塑性限界	土の液性限界・塑性限界試験方法	JIS A 1205

※1)改良土の場合は、コーン指数のみを測定する。
※2)1層ごとの突固め回数は、25回とする(参考表参照)

2 利用する(特記仕様書等で指定されている)登録ストックヤードに、持込む建設発生土の土質区分と搬入土量、搬入時期をお知らせ頂き受入れが可能であるかご確認願います。

3 受入れが可能な場合は各利用申請書を提出してください。不可能な場合近隣のストックヤードをご紹介致します。
(一社)岩手県建設発生土リサイクル協会にお問合せ願います。
※週間予定表(配車台数・運搬回数・搬入、搬出予定日等)の提出をお願いします。

4 各ストックヤードより運搬車両1台毎に搬入・搬出伝票の受け渡しをお願いします。運搬車両種類別ヤード持込土量(ほぐし土量)は表-2の標準積載量とします。

表-2　ダンプトラック種類別標準積載量

運搬車両	荷台寸法	荷台体積	積込土砂比重	平積積載重量	標準積載量	積載重量
2tDT	3.05×1.60×0.32	1.5㎥	1.3t~1.6t/㎥	1.95t~2.40t	1.2㎥/台	1.92t/台
3tDT	3.05×1.60×0.37	1.8㎥		2.34t~2.88t	1.8㎥/台	2.88t/台
4tDT	3.40×2.05×0.35	2.4㎥		3.12t~3.84t	2.4㎥/台	3.84t/台
10tDT	5.10×2.20×0.52	5.8㎥		7.54t~9.28t	6.0㎥/台	9.60t/台

5 ストックヤードへの搬入完了後、完了届の提出をお願いします。利用料金お支払い後『土砂受領書』を交付いたしますので、発注者へ提出願います。
※登録ストックヤードでは土砂受領書の写しを5年間保存します。

6 ストックヤード利用時の留意事項

①廃棄物処理法に規定されている廃棄物が混入した建設発生土は受入れできません。
※廃棄物の混入が確認された場合は受入れを一時停止し、廃棄物は全て引取り願います。
②土壌汚染された場所からの建設発生土は受入れできません。
③申請内容と異なる建設発生土が搬入された場合は受入れを一時停止し、搬入済みの土砂について区分判定試験(含水比、コーン指数)をお願いします。(区分変更協議のため)
④雨天日のストックヤードのご利用は、一般道路汚損防止の観点から休止と致します。
※(小雨、降雪、降雨後の利用については利用ストックヤードに直接問合せ願います。)
⑤最大積載量5t以上の車両は必ず「ダンプカー規制法」等による法令を遵守してください。
⑥違法改造した車両及び過積載車両での利用は出来ません。確認した場合入場を禁止します。
⑦処理土・改良土の販売は、購入者が事前に品質を確認し、購入者の承諾を得てから搬出します。



未来につなぐ、建設資源の循環を、岩手から
一般社団法人 岩手県建設発生土リサイクル協会

災害の教訓と建設発生土をめぐる現状

令和3年7月3日午前10時30分頃、静岡県熱海市伊豆山地区において発生した大規模土石流災害は、二十八名もの尊い命を奪い、多くの住民の生活と地域社会に甚大な被害をもたらしました。

この痛ましい災害は、盛土の安全管理及び建設発生土の適正な取扱いが、人命と地域社会を守るうえでいかに重要であるかを私たちに突き付けました。

私たちは、この災害の教訓を決して風化させてはならないと考えます。

同様の悲劇を二度と繰り返さないためには、建設発生土に携わる事業者一人ひとりが高い倫理観と社会的責任を自覚し、安全性の確保、法令遵守の徹底及び適正な資源循環の推進に業界全体で取り組んでいかなければなりません。

近年、循環型社会の形成、天然資源の有効活用及び環境負荷の低減が求められるなか、建設発生土の再資源化は重要な役割を担っています。

一方で、品質管理、安全管理、コンプライアンスの徹底及び適正な流通体制の構築など、多くの課題に対して個々の事業者のみで対応するには限界があり、業界全体が連携し、社会的責任を果たしていくことが求められています。

循環型社会における建設発生土リサイクル協会の役割

この度、建設発生土の利用促進に取り組む県内の登録ストックヤード事業者にて、(一社)岩手県建設発生土リサイクル協会を設立いたしました。岩手県の建設発生土のリサイクル率は低い状況にあります。考えられる要因として、良質の発生土は工事間の利用時期のずれにより、土質不良による流用が困難な発生土は残土として最終処分している現状があります。不要な土はありません。私たちはストックヤードをフル活用することで、良質土のリユース(一時保管による工事間での利用時期の調整)や不良土のリサイクル(土質改良による再生)販売を行う事で、循環型社会を形成する一助になるものと考えます。利用促進を図るため現場の求めに応じた品質改良土(土質に適した含水比や粒度分布に整える)を提供する事でリサイクル率が向上し、SDGsの目標12-「作る責任使う責任」を達成できます。また行政の協力を仰ぎ、(一社)岩手県建設発生土リサイクル協会と連携した「違法盛土パトロール」を実現することで、危険な盛土や不適切な残土処分を未然に防ぐと共にコンプライアンスの徹底を図って参ります。



建設発生土区分

土質区分基準

区分	コーン指数 qc(kN/㎡)	土質材料の工学的分類		含水比(地山) Wn(%)	掘削方法	受入れ基準詳細 (搬入前に各SYに確認)
		土質分類	中分類土質{記号}			
第1種 建設発生土	—	礫質土	礫{G},砂礫{GS}	—	※排水に考慮するが、降水、浸出地下水等により含水比が増加すると予想される場合は、1ランク下の区分とする。 ※水中掘削等による場合は、2ランク下の区分とする。	粒径30cm以上の岩塊や転石が多数混入する場合は、受入れについて別途協議が必要。
		砂質土	砂{S},礫質砂{SG}	—		
第2種 建設発生土	800以上	礫質土	細粒分まじり礫{GF}	—		粒径30cm以上の岩塊や転石が多数混入する場合は、受入れについて別途協議が必要。
		砂質土	細粒分まじり砂{SF}	—		
第3種 建設発生土	400以上	砂質土	細粒分まじり砂{SF}	—		バックホウ0.5m3級(12t)の走行が可能な硬さの粘性土及びこれに準ずるもの。
		粘性土	シルト{M},粘度{C}	40%程度以下		
		火山灰質粘性土	火山灰質粘性土{V}	—		
第4種 建設発生土	200以上	砂質土	細粒分まじり砂{SF}	—		湿地ブルドーザの走行が不可能な軟らかい粘性土及びこれに準ずるもの。
		粘性土	シルト{M},粘度{C}	40~80%程度		
		火山灰質粘性土	火山灰質粘性土{V}	—		
		有機質土	有機質土{O}	40~80%程度		
泥土	200未満	砂質土	細粒分まじり砂{SF}	—		標準仕様のダンプトラックに山積みできず、その上を人が歩けないような流動性を呈する状態のもの。受入れ基準は運搬可能な状態まで脱水した土砂に限る。丈の長い草の混入は受入れ停止とする。
		粘性土	シルト{M},粘度{C}	80%程度以上		
		火山灰質粘性土	火山灰質粘性土{V}	—		
		有機質土	有機質土{O}	80%程度以上		
		高有機湿度	高有機質土{Pt}	—		

建設発生土の受入れから再利用の流れ

区分	コーン指数 qc(kN/㎡)	建設発生土の受入れ・保管方法	活用方法・処理方法	適用用途
第1種 建設発生土	—	工事間での再利用期間調整のためストックヤードで一時保管。粒径30cm以上の岩塊、転石と土砂を選別(岩塊、転石は有料で破砕)	処理土使用(リユース)	第1種建設発生土・改良土
			乾燥、粒度調整(破砕等)	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
第2種 建設発生土	800以上	工事間での再利用期間調整のためストックヤードで一時保管。粒径30cm以上の岩塊、転石と土砂を選別(岩塊、転石は有料で破砕)	処理土使用(リユース)	第2種建設発生土・改良土
			脱水、乾燥、粒度調整	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
第3種 建設発生土	400以上	受入れ後、ストックヤード内で自然ばっ気を行いながら、工事間での再利用に備え一時保管。再利用決定次第、所定の品質が得られるよう品質改良を行い販売する。	処理土使用(リユース)	第3種建設発生土・改良土
			改良土利用(リサイク)	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
			脱水、乾燥、土質改良	
第4種 建設発生土	200以上	受入れ後、春~夏にかけストックヤード内で撹拌による自然ばっ気を繰り返しながら、再利用に備え一時保管。再利用決定次第、所定の品質が得られるよう改良を行い販売する。	改良土利用(リサイク)	第4種改良土
			脱水、乾燥、土質改良	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
				適切な土質改良を行えば使用可能
泥土	200未満	受入れ後、春~夏にかけストックヤード内で撹拌による自然ばっ気を繰り返しながら、再利用に備え一時保管。再利用決定次第、所定の品質が得られるよう改良や、適切な良質土とのブレンドを行い販売する。	改良土利用(リサイク)	泥土a、泥土b、泥土c
			脱水、乾燥、土質改良	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
			泥土c(良質土との混合)	
				適切な土質改良を行えば使用可能

※1)処理土とは脱水、乾燥、粒度調整(破砕)により土質改良を行い、その性状を改良した発生土のことをいう。
※2)改良土とはセメント系や石灰系の固化材を混合し土の性状を科学的に改良した発生土のことをいう。

一般社団法人 岩手県建設発生土リサイクル協会

環境負荷の低減・持続可能な資源活用を目指して

リサイクル協会会員・登録ストックヤード



~建設発生土 リユース・リサイクル 100%~

一般社団法人 岩手県建設発生土リサイクル協会

正会員

地区名	商号・名称	本社所在地	ストックヤード名称	所在地	最大堆積可能量(㎥)
県北地区	南建設株式会社	〒028-6221 岩手県九戸郡軽米町 晴山22地割46番地1	テクノパークミナミ	九戸郡軽米町 大字軽米22地割44-404	40,000
			エコファクトリーミナミ	九戸郡軽米町 大字山内第6地割和堂地向208-110	2,995
盛岡地区	高橋重機株式会社	〒028-7302 岩手県八幡平市 松尾寄木第15地割431番地1	松尾寄木ヤード	八幡平市 松尾寄木第13地割356番地3	51,200
			松尾寄木第2ヤード	八幡平市 松尾寄木第13地割356番8ほか	52,300
	株式会社東北ターボ工業	〒020-0841 岩手県盛岡市 羽場13地割30番地11	花巻ヤード	花巻市石鳥谷町 八幡第13地割36番29ほか	134,318
			矢巾ヤード	紫波郡矢巾町 広宮沢1-2-113他	86,906
			矢巾第2ヤード	紫波郡矢巾町 大字広宮沢第2地割160-22ほか	2,556
			花巻第2ヤード	花巻市石鳥谷町 好地第11地割18-1ほか	22,636
			紫波ヤード	紫波郡紫波町 上松本字中野67ほか	40,756
県南地区	株式会社大久保建設	〒028-0115 岩手県花巻市 東和町安俵2区11番地	はなまき成島プラント	花巻市東和町 安俵9区330番ほか	7,604
	クリーンセンター花泉有限会社	〒029-3104 岩手県一関市 花泉町日形字日形山2番地1	リサイクルヤード藤沢	一関市藤沢町 増沢立石79番地1	20,000
			リサイクルプラザ玉里	奥州市 江刺玉里柳沢70番地	1,254
			リサイクルヤード玉里	奥州市 江刺玉里森下222番地6	5,435
			玉里残土処分場	奥州市 江刺玉里森下222番地6	430,000
	株式会社広岡組	〒023-0401 岩手県奥州市 胆沢南都田字下広岡323番地1	萩森ストックヤード	奥州市 胆沢若柳字中萩森59番地	32,558
	株式会社丸重	〒024-0004 岩手県北上市 村崎野15地割312番地7	パークまるじゅう	北上市 成田2地割4-39ほか	10,000
	株式会社山下組	〒025-0043 岩手県花巻市 上根子字石川原78番地1	中根子ストックヤード	花巻市 中根子字寺前1番地ほか	21,000
沿岸地区	株式会社菊地建設	〒027-0031 岩手県宮古市 八木沢1丁目5番地1号	潮吹土場①	宮古市 崎鍬ケ崎第16地割94番・ 125番1・91番1・126番	20,000
			潮吹土場②	宮古市 崎鍬ケ崎第16地割93番1	3,000
			藤畑	宮古市 津軽石12番地152番1	3,000

賛助会員

会社名	所在地
コマツ岩手株式会社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南2丁目9-5
株式会社シムラ	〒023-0065 岩手県奥州市水沢字水山195番地2
住友建機販売株式会社　東北統括部 盛岡支店	〒028-4132 岩手県盛岡市渋民字岩鼻20-21
日立建機日本株式会社　北東北支店	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南2-7-11
有限会社GAT技術士事務所	〒020-0141 岩手県盛岡市中屋敷町8番16号
コベルコ建機日本株式会社　盛岡営業所	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南2丁目6番24号